〈解答〉

1　1　イ
　　2　エ
　　3　琉球王国
　　4　ウ
　　5　記号：イ　　名称：元禄文化
　　6　ウ
　　7〔例〕物価を引き下げること。

配点　1 3，7は各2点，他は各1点　10点満点

〈解説〉

1　1　朝廷の力を再び強めようとしていた後鳥羽上皇は，源氏の将軍が絶えると，1221年に，幕府を倒そうと兵を挙げた。しかし，北条政子らを中心とする幕府は，東国の御家人を結束させて京都を攻め，上皇の軍を破った。これを承久の乱という。幕府は，上皇らを隠岐（島根県）などに追放し，朝廷の監視を強めるために，京都に六波羅探題を置いた。京都所司代は江戸幕府の役職で，朝廷と西日本の大名の監視を行った。

2　南北朝の内乱が続く中，幕府は国ごとに任命した守護に対し，これまでの軍事・警察権だけでなく，荘園の年貢の半分を取り立て，軍事費にする権利などを認めたことから，地方の守護がしだいに力を強めていった。やがて守護は，国内の武士を家来として従え，国司に代わり，その国を領地として支配するようになった。このような守護を，守護大名という。アは鎌倉時代末期，イは室町時代末期，ウは10世紀ごろの社会の動きである。

3　15世紀の初め，中山王の尚巴志（しょうはし）が，三つの王国を統一して琉球王国を築き，首里を都として独自の文化を発展させた。琉球は，明に朝貢するとともに，日本や朝鮮，東南アジアの国々とも盛んに貿易を行った。

4　一向一揆とは，15世紀後半から16世紀にかけて一向宗〔浄土真宗〕の信徒がおこした一揆である。1488年におこった加賀の一向一揆は，守護を倒して100年近く自治を続けた。浄土真宗を開いた親鸞は，阿弥陀仏の救いを信じて自らの罪を自覚した者が救われると説いた。アは平安時代初期の密教で，この世の病気や災いを取り除くまじないや祈とうを取り入れたため，天皇や貴族に信仰された。イは奈良時代の聖武天皇の政策，エは鎌倉時代初期，栄西や道元によって伝えられた禅宗である。

5　17世紀末から18世紀初めにかけて，上方と呼ばれる大阪・京都を中心に，町人たちを担い手とする文化が生まれた。この文化を，このころの年号をとって，元禄文化という。アは室町文化，ウは桃山文化，エは鎌倉文化である。

6　1830年代に天保のききんがおこったため，都市では米の買い占めや値上がりに抗議する打ちこわしが激しくなり，農村では百姓一揆が頻発した。大阪では，1837年，

元大阪町奉行所の役人で陽明学者の大塩平八郎が，ききんから人々を救おうとしない役所や豪商にいきどおり，門弟を率いて乱をおこした。アは1792年，イは1808年，エは1635年のできごとである。

7　1841年，老中の水野忠邦は，社会の安定と幕府権力の強化を目指して改革を始めた。まず，物価の上昇は株仲間が商品の流通を独占しているためと考え，株仲間を解散させた。また，風紀を正すために出版を統制し，ぜいたくを禁じた。そして，年貢の確保のため，江戸に出ている農民を村へ帰らせた。さらに，江戸や大阪周辺の大名領などを幕領にしようとした。